

丹波篠山市のこれからの中学生のスポーツ環境のあり方（検討案）

1 中学校部活動の課題

- ・ 少子化により集団スポーツのチーム編成ができない
- ・ 取り組みたいスポーツの種類が減少
- ・ 学校の小規模化による顧問・指導者の不足 ← 部活動指導員制度の導入（R2年度～）

2 課題解決に向けて

○地域と連携した持続可能なスポーツ環境の構築

3 体制の整備

①地域で支えるスポーツ環境の意識の醸成

→ 専門家によるスポーツの現状と未来をスポーツ関係者、市民等への情報提供

②「部活動応援隊」として協力いただける民間の企業や事業所等と連携し、部活動のサポート体制の整備

→ 企業等の強みを生かした様々な競技経験をもつ人材を部活動指導員として登録。

③スポーツ協会等の連携協力

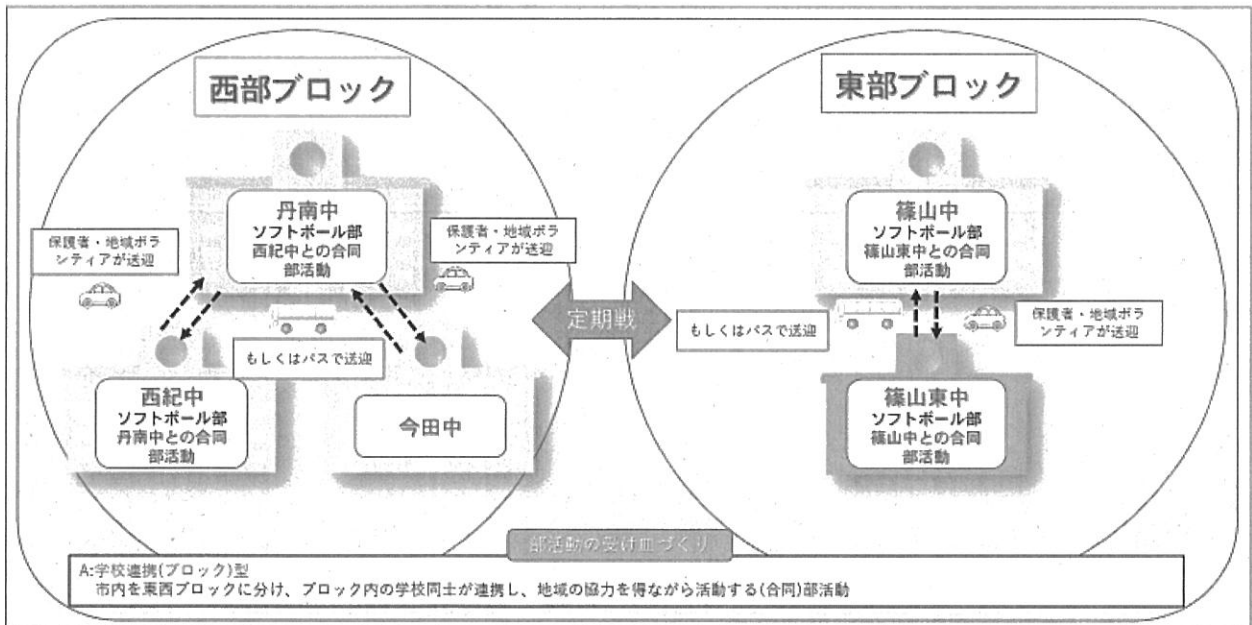
→ 各協会の指導者の支援

4 活動モデル案

<A 学校連携（ブロック）型合同部活動モデル>

市内で東部と西部のブロックに分けてチーム編成をする。

A 学校連携（ブロック）型合同部活動モデル（案）

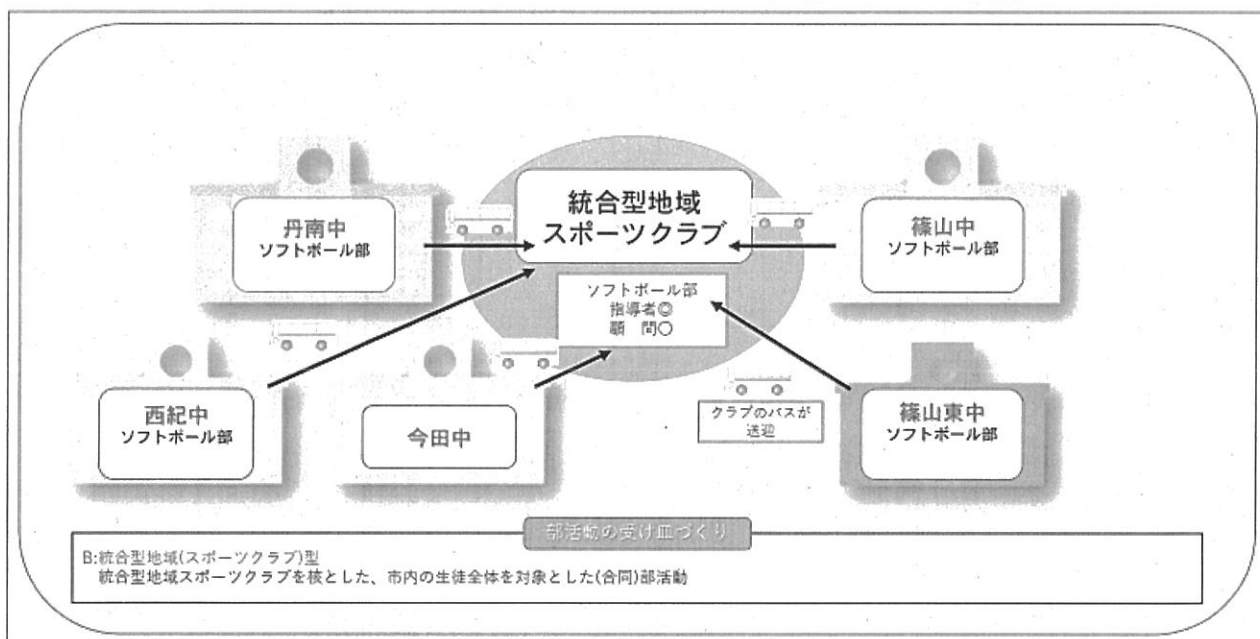


- 中体連が認める合同チームとして試合に出場できる
- △練習等の日程調整が難しい。顧問の負担は増える。
- △学校間の移動に伴う「場所・施設」「時間・経費」「人・責任」も課題となる。

< B 総合型地域スポーツクラブ活動モデル >

スポーツ協会や企業、指導力のある保護者等の協力を得て総合型の地域スポーツクラブを設立し、市内の生徒対象にスポーツを行う。

B 総合型地域スポーツクラブ活動モデル (案)

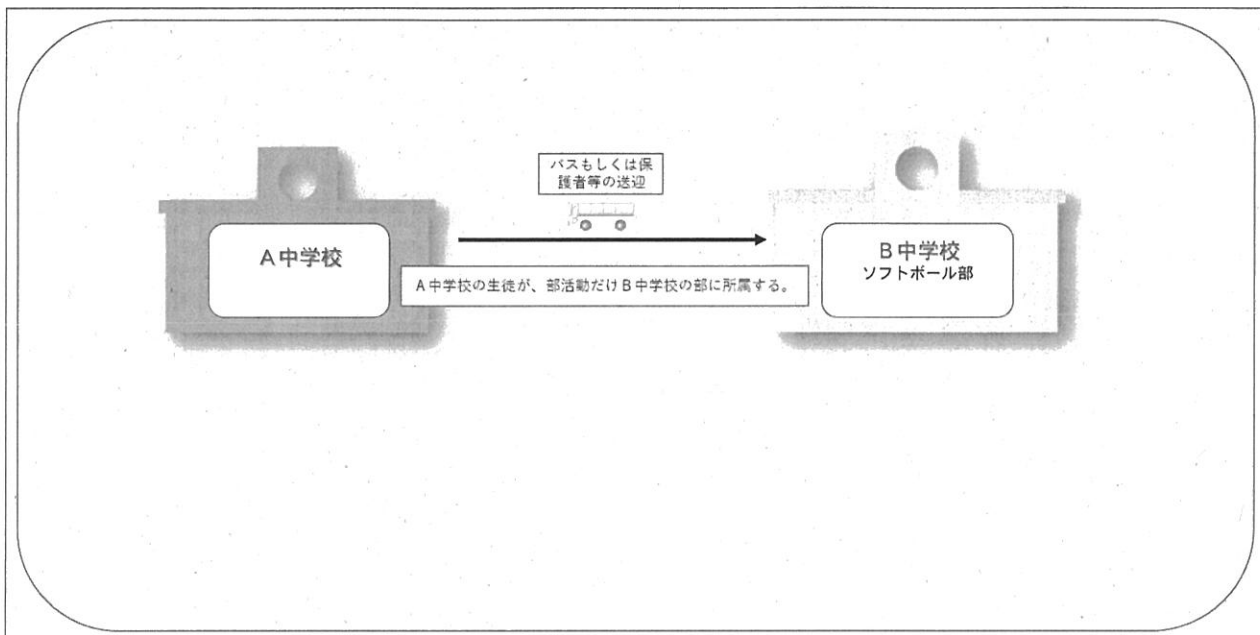


- 地域の指導者や保護者等が関わって社会体育としての活動ができる。
- △主体となる体制の整備の構築
- △移動に伴う「場所・施設」「時間・経費」「人・責任」の課題。
- △中体連主催の試合には出場できない → 中体連との協議・連携が必要

< C 部活動選択制の導入 >

A 中学校の生徒が、B 中学校の部活動に入部することを認める。

C 部活動選択制の導入 (案)



○やりたいスポーツを選択できる。

△移動に伴う「時間・経費」「人・責任」の課題。

△合同チームとは認められないので中体連との協議・調整が必要